

目の病気は事前知識で早期発見を！

中高年の方がかかりやすい目の病気について知識を深めましょう。

白内障の手術のタイミングは？

白内障の手術は、濁った水晶体を取り出し、代わりに人工の眼内レンズをはめ込むというもの。白内障治療には手術が最も確実ですが、手術を受けるタイミングは人それぞれ。例えば免許更新に必要な矯正視力（眼鏡やコンタクトレンズを使用時の視力）が0.7程度に達しないとき。一方、矯正視力が0.7を下回っていても車の運転をしないため手術をしないという方もいます。逆に、視力が1.0以上あっても、「まぶしい」「色合いが黄色っぽく見えるのが気になる」「かすみ強い」「左右差が気になる」場合に手術を受ける方もいます。手術の時期は、ご自身が不自由を感じられたとき、といえるでしょう。

緑内障は早期発見が肝要

緑内障の代表的な症状は視野の欠け。しか

し、一般的に緑内障は進行速度がゆっくりであることや、人間は両目で補い合って物を見ていることから、初期の視野の欠けは自覚しにくく、自身での早期発見は難しいといわれています。啓発用パンフレットやインターネット上での簡易的な視野検査でセルフチェックもできますが万全ではないので、40歳を超えたら定期的な眼科受診をおすすめします。とくに近視・遠視が強い方、親族に緑内障の患者が多い方は緑内障リスクが高いといわれています。

加齢黄斑変性とは

黄斑とは、網膜の中心部にあり、多くの情報を処理する重要な役割を持つ、直径2ミリほどの小さい部位です。加齢とともに、網膜よりさらに眼球の外側にある網膜色素上皮の下などに老廃物が溜まって、不要な血管が生えてきたり出血したりすることによって、黄斑の情報処理能力が衰えます。すると視界の中心近くが暗くなったり、モノがゆがんで見えたり、視力が下がったりします。



治療は、目の中に直接、血管をしぼませるような薬を注射したり、レーザー光線で不要な血管を処理する方法があります。

目の病気は日常生活のなかで自覚するのが難しく、健康診断などの簡単な検査では発見できない場合があります。重症化によるリスクを最小限にするため、定期的な検診を心がけましょう。